

# 『生きててよかった と思った』

杉並区 橋本 えりさん

「この日をずいぶんと待つ  
ていたような気がします。」

中野区 金子 篤さん

「やっぱり、岡部さんの本は、空間  
演技で見るのが最高！」

江東区 笠原 頌子さん

「待った甲斐がありました。空間演技は  
やはり、健在であった！」

八王子市 杉田 真理さん

「オープニングから、思わず背すじがゾ  
クゾクと、してしまいました。」

新宿区 十文字 浩子さん

「思わず、自分自身が劇にひきこまれて  
いくのを感じました。」

北区 国原 秀美さん

「映画で予告編はよくあるが、演劇の予  
告編は初めてで、意表をつかれた。」

国分寺市 幅口 尚紀さん

新風営法でややあごを出している  
東京新宿歌舞伎町ビル街の小劇場シ  
アター・ビッグヒルで、劇団空間演  
技が「ラガー」を上演した。赤穂善  
計、鴨川てんし、といったメンバ  
が結成以来十五年、熱血漢ぞろいの  
劇団に期待をもった客が押し掛け、  
定員一〇〇人以下の小屋にあふれか  
えった。座付き作家の岡部耕大と言  
えば従来は九州の肥前松浦を舞台に  
した連作で知られるが、今回は、騷  
乱罪の男達\*の副題のように、十七  
年前の新宿駅構内を占拠したデモ事  
件を、田舎の鉱山町のラグビーター  
ムの監督をする男とそれを追う刑事  
のたどった人生劇にして新鮮な男  
さいドラマに仕立てている。日常性  
のなかに小さな切り口を浮び上が  
せて社会的事件を描くのは、今流行  
している手法だが、四〇才になった  
作者が、自分の青年期のムードとし  
ての書物や音楽などを列挙する男の  
口を通して激動の時代を眺めている  
のが実に新鮮な情景となった。小劇  
場の内部を山小屋のスタイルにして、  
チームの練習合宿所を作り、濃密な  
劇空間に作り上げ息もつがせない展  
開が御見事。  
(毎日新聞 トライ氏より)

● 混雑で、ご迷惑をおかけしました。 ● 電話予約で、ご予約ください。  
劇団「空間演技」 03-205-1769 (13:00~17:00)

次回公演予告！ 10月 岡部耕大書下し!!  
ヒットマン

## 『哀しき狙撃兵』

「組とは哀愁の結合体なのだ」……とだれかがいった。

新人募集!! 目指すか、それともこのまま甘んじるか!!

経験・年令不問

〒160 新宿区歌舞伎町2-8-2

希望者は芸歴書、顔写真を郵送下さい。

シアター・ビッグヒル